

復興のきざし見えず

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 菊池忠志
編集責任者 坂本公則

国労フクシマ「激励・視察」

東日本大震災と福島第一原発事故から、3年5カ月が経過したが、復興は一向に進まず、放射能汚染水は流れ続け、事故の収束や廃炉問題など山積する課題への政府・東京電力の対応はいまだ皆無に等しいといってもよい状況にあります。

未だに復旧の目途が絶たない被災線区や避難を余儀なくされている組合員、原発被害で苦しむ県民の状況を把握しながら、仙台地本及び水戸地本を中心に常磐線の現状を視察し組合員を激励し、交流を深めるために開催されました。

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！



8月28～29日、国労フクシマ交流会事務局「激励・視察」が国労本部・東本部・仙台・水戸地本から総勢11名が参加し、常磐線相馬～浜吉田間の視察を行いました。
常磐線は津波被害により山側へ新ルートの新線工事が進められ、旧新地駅・旧坂元駅周辺は大型機材が投入され復旧が進められていました。旧坂元駅からの風景は、建物もなく海が近く、津波による大きな被害をもたらすと強く感じました。続いて、廃棄物焼却施設・松川浦・相馬港周辺を視察し、原ノ町地区の組合員激励会場へ向かい、現地より保技セ・出向者の組合員8名と交流を行いました。
主催者を代表し本部菊池書記長より、「水戸・仙台地本国労

フクシマ交流会」が本部主催となり今後も苦悩している組合員に寄り添い、原発事故後の現状を全国に発信していく」と報告がされ、受入れ地区組合員の渡辺工務副議長より、「今回の激励のお礼と震災以降の異動をはじめ、生活家庭環境の変化により体調が悪化してきている。日航事故・JR尼崎事故・原発事故など誰も事故の責任を取らないと報道されている。私たちの生活を取り戻すためには、東電や国の責任追及の闘いが問われている。地区の組合員も高齢化しているが精一杯頑張る」と訴えられました。
懇親会を深める中で、「震災時、埼玉県加須市に避難した際、大宮地区本部の組合員にはお世話になり、家族へお父さんの所



属している国労なんだと自信を持って話した」など、当時のことを思い出し和やかな交流を深めました。激励・視察の最終日、浪江駅・桃内駅・小高駅・磐城太田駅周辺を視察し、浪江駅前での5.57μSv/hの線量の高さと人のいない静けさに異様な感じを受けました。

東電が損害賠償を支払う



6日)にたいし、東電は5日、控訴を断念し判決に服することを決定しました。
同被害弁護団は同日、「東電の『控訴断念』に対する声明」を発表し、「決断したことを踏まえ、今日なお泣き寝入りを強いられている多くの自死被害者の権利救済に真剣に取り組みことを求める」としています。
これで、「自死と本件事故との間には、相当因果関係がある」と、明確に東電の責任を断罪しました。